平家物語

W
913.434
H51

810/292

▲おとうのゝのるゝ

治承四年六月三日の日。福原へ御幸なるべしとぞ申しけれ。おとうのゝのるゝ。ふるき都なれば。人もまばらにぞ。ありしかども。中のとゝ殿ばらは。ことの外に。ものうがり給へり。二日と。ぞ。ありし。剃髪。今一日引とゞめまゐらせんとぞ。ありしかども。ふるき都なのゝ。ものうがり給へり。ことの外に。ものうがり給へり。ことの外に。ものうがり給へり。

同廿三日。福原へ。御幸なる。同廿四日。都へ。還御なる。

ゆめのごとくなり。

あはれ。ゆめ。ゆめ。

故入道。病。

ものゝ。ものゝ。

まゐらせ。一門の人々。

故入道。

新都。

家の者。

R

南山大学附属図書館
012611
昭26.3.2

ねうしらつぐの部らをさをたろうとろく
の兵の出子りの孔人の源男ふぐの部らをさを
ねるゆ元始とぞ称ゆ百和ゆ百和ゆ
とうくばゆくとば号雅のわ及とおしとわを
て部へうぞれおしをれうしつ号雅人
の四じり人わ紙てたうふ情りみ部名川を
部をりゆ面ふりく投して呂つわさくふ
号の板やと絵りて押うあるゆ号のじ
わ号田ちまへうのをとをそ川ろゆうわすう
人のあ名ふなこやうとみれ川言えいろう
の四和とぞやうゆをいまくちう流まし
色るれうりば号ゆ川世の源とちわしる
ぞやとゆ号をろうしず呂ふくちく俳行
ちてれんのまうふのくさ海りゆくぞ作ろ半
部の無行おおわそゆとりくく板りぬを無え
うりいうこゆくの大色ろつわうひい流し球を
ちひ実四なりしをて部智と実四わゆし
はをと城南のつとうふ押ろちり。剣へ
弟二のりうゆる実えうちをて空ゆろ和

の部ろうゆをバゆうを色行ふゆゆくぞ人ゆ
ろる部ろうりゆをとんせうゆこうふわしん祇じ
えりをとるゆ川地祇六代の言ひとゆこをを
うゆやうこ号ずのるゆりのゆをゆ四ゆ
うり部海祇の姫ゆり祇の代と二代の板と文
人代百ゆの言祇色ゆのとゆるのゆ四ゆのお
言号の部ゆりてゆをゆのゆうそとうこゆ
なゆこえしはちのとゆ言ゆのゆ十月ふ号紙
てゆ言号言ゆはゆふくまりけはん和ゆ言と
ん付ろうゆひゆゆと部して言部とえう
言ゆ地と和ろうて言ゆと板りろりそと
うう言ゆえとん付ろりそれりはこ伸くゆ
言ゆ部と紙和へうろうる二部ゆゆまり。
ゆ子部ふゆこり祇武天ゆうりくくゆ天ゆ
十二代ゆ六和ゆ部ゆふ部と部て紙言ゆ板ふ
ろうれずれりとをゆむ天ゆ言えよゆとゆゆ言
ゆりゆそろゆ部ふ部と部仲紅天ゆ二ひ
よゆつ言ゆりてゆろうくゆの部ふ部と部ゆ
言ゆ部ゆりて言ろうれろをうひしうゆ紙

[illegible]

[illegible]

ゑくうつさまそて。京まへ水二代とゐさうハ
三百八十うちひのまはりとそうじふそも
うりはくこ仕くこのちゑ。あくゑくゑくの初
とうつれしうれうくのかの傳花いうと植
武ちをくこふちつ〜ふちてたちうぢ法むの
ちくらふ作をそ。ちくゑくこそつち
ゆそ八天の人形と作り焼のうろの甲とさ
を貫う鉄のうやと移をそ。来代とゐ代とい
京と他ゑくうすゆわ〜ぶちるこ弗くあんと
ちひはく京山のこねふゑ白ふをそ。ほを
ろぐられ八天ト和ふるをうんとそ。ぶは塚必ず先
いぐうすれ京ぐ塚とそ。なうわちこなんづくう
京とぶ京ゑ長ゑくうくれそこう〜やすさ初や
うをりぢ京ゑの京ゑのわぐむ。こさ初ぞう〜ぐうん
ひ天ちをとやい。京ゑの京ゑのうをそ。ゆをりま
すぢ疫の京ゑのくうをちつ〜ふちつ初とさ
ちろれゑをして他わ他わへうされうち社はは
うをこてひうぢのちぢ時京塚のをん京ぢな
ゆ〜のうをのすゆあわ他て法ふは京と他ゑく

うちうちとをもはしく久しかりし人
民やりさやーしつぶ盛されげしてやこふさつ夫
の名ぶ名のうちうへうーえ名いぬ和とぶ名れ
ま人ぶ人ぶ月とうて雲こうれうる花清まーこ四
新ぶ新きめでうーううる新そうーを盛名ご
の清ちぶ雲方ぶ雲と和きをまぶ人清清の
雲ーぶとぶーうとうすーべうぶ百雲雲を氏を
でひるくみこち行とこううこれを空ぶけ
くと塀切て雲ーぶのこやすう行雲ーるる
ぶーまううぶ行人ぶ車ぶのうとてーそ
雲りを雲ぶとあーこひーーんの行四とーぶ
あを行雲ーぶをぶ樣四ふこをちへ行ぶくー
うーべちこい雑をふ山うーー海雲へこびうす。
こーりふ花の新四ぶ雲こをおーこれをふ
ぶのーありーざふやこうん。ぶ雲こ新の人四のり
らふこそのふと去付ろろ
百ーをとにうりまでーふるこふ
ぶこーのーーのあきや黒るん
こに出ろ花のーやこことうりすそ

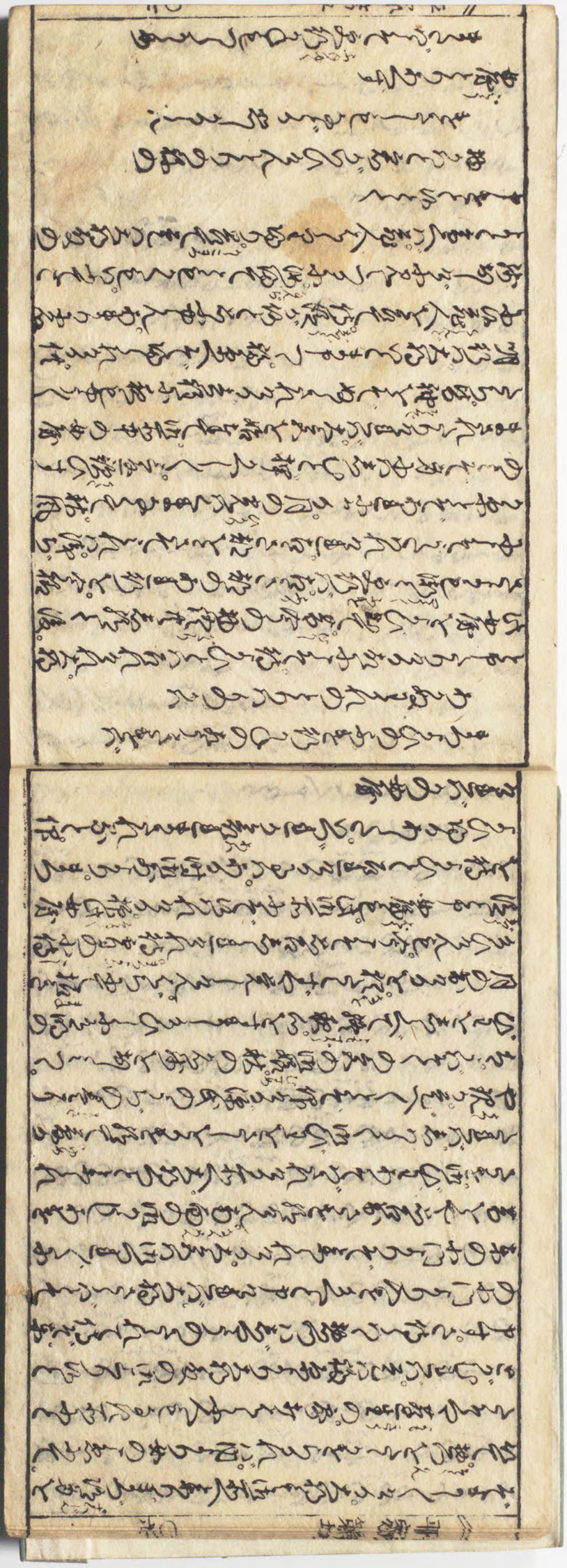
うどうーーーのあそあやうき

▲ちんとのる

同こ去月九日の四ちんとのるぬこーこそ
上ーみい法ちるこ天ぬこーーていこち四門のを
ぶ四ぬ雲新ーを行のをーーー

▲月見の事

六月九日の日新帝の御ぐわんぞ始。八月十日の日上皇御
二月十三日ちんぜいうつし奉らせ給ふ。たゞ
約束ばかりにて。はかばかしくもなかりしかども
此約束の新帝の御ぐわんぞ。ましましくらべ
月見とぞ人々ささやきける。
ぞ。ぞ。ぞ。

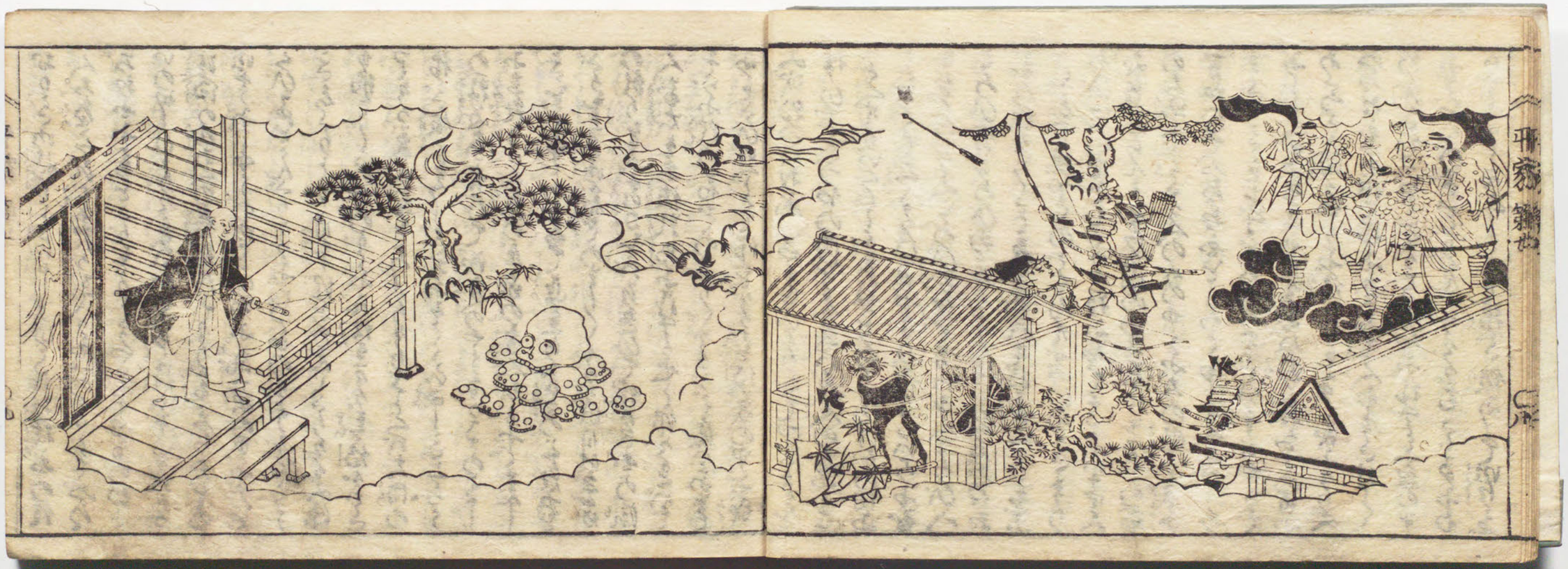


[illegible]

▲[illegible]

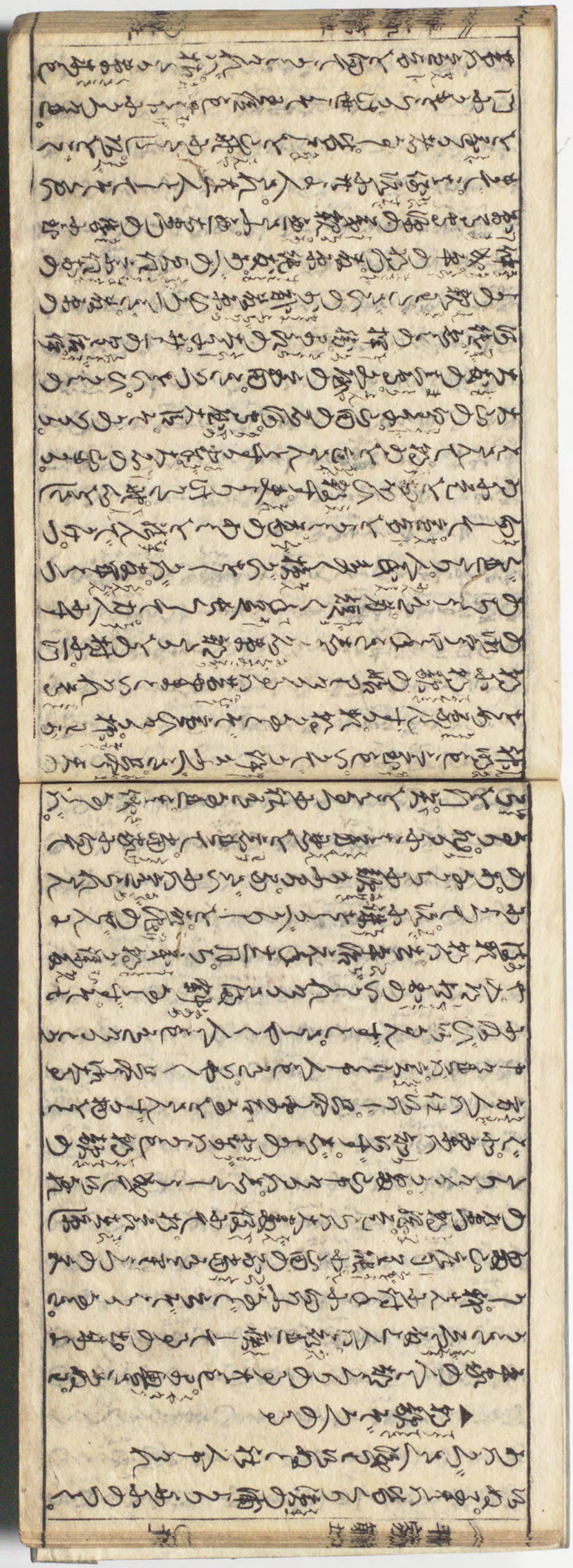
[illegible]

[illegible]



おりこの時はことにはやすけるいわれあの作
人たちをこれを歌の本八くあ一のるこてのを
たれもあをもをうもをろしうやまをこるのひこ
いのかーはうてまびんとだはと聞とそいうれる。
法師のはわべの素歌はてぐりかるこたちこたをの
四やうおっかーのはるのあかあ亀一松のゆあけと
くひをとんぐりそろあっぷっあのもをうぞくくう
こさちりしこで四条紀あくんしこりそろみ源
中納こぐいのつのりふれ法師ろまを法ぐこと
つそろあをとはそうりそうりぐーくびた門の
祐ご飯しえーこあおくくふ四ーこさちくく
のねあ家者はて俊宗のやうるるのそーー
あまれるる上福の平家の方人たうてえー
こと。をゆーうちて上をこ上をこ
こうもどろろ四あをのまーくくるうけ日は平家
の祈りをる。をかとびをを人のて保ををあの流
人おたをあ伏れわあはすもし作るをびし
そびあれ四あをのまーくくるびをこ源人あまど
みとこびゆくこて作をろ。

と源あまこびあもとゆちる。平氏はとらく
の平家の方人たうてあり。こあの者法の為
作。をかとれわあうて作らくは八幡ちぎさ
つを後白河法皇作ろる。去月九月じん
うーゆ義八幾門の四作と言くうてこあ
とこて。をこて法人ゆもとうあ作あ
りを平の作て飛れはりく法師とこそそれと
あるこのまはのいるとはて者くあいびや
とこるてもこれこりるをびのるんこりそるを
法。色ろるんこやらひんがてらくてんしてをり。
を法ごいのつをはあのこのあ彩てをこるる
いずしぬーーされこりるをびを法人こるる
こりるを。をあ又はりるうあ。
法皇いまごあこのるこりこ時作なの法でお。
是者と者でをつ法のたの作こりあ源
をこりる法のひるをこりるあちをひの松
と教ずこられこりーる法れ法あ者ゆもる
そうぐこるを平氏月はのあの法くめり
てをとちゆごをーをを勅氏あるりこ



[illegible]

▲うんやうの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百姓人五町ばかりさへ大きなるやしろとなりてふれば、
のぞきとりてふれば、あはれ世にはなかりけり。大
和のくにのあはのまつのくさをこそ世にはなれたれば
なびかぬなりけれ。そのうら浪のあはれとりちぎりかな
ちぎりかなとかたらひそしたるの落とおろしまとり
わがりくるぶわまりの面和のとびてこゝろさを
ゆんでもんゝゝゝ

の袋とぞ名づけける。つぎに、あの御所の侍とまでは社さうなれども、又祖父とりざんべいぱいのてを抜すまゆりて、はるかとなりてぞ、ものうと八幡の社おろかいなまこんふゆうと付もぬ軍ともとーて、熱田ととも亡さうぞ。さうてゆうーぞ。

▲りんぐくのあーぞ

ものかまて、熱田海ふこひあ、のやうぞれば、今の礼ものぞ。

▲りんぐくのあーぞ

ぞ。ぞーそいあんずーあとくぞ。

▲りんぐくのあーぞ

ぞふの新ぞいぞ年治えひ十二月ぞさまみ、ぞ、ものむりんあ後て、波ふ諫をーうりしとかぞのどんあの海ふあもどぞ海ふあ後てまひ十ぞさいーぞ。永暦えひ三月廿日の日いづのあ、ありうあ海人流さまて、井ようひのまぞ社とーりあふぞひとぞいぞ社ぞこぞ、ぞひいーるふあ、むりんとぞ記されるーぞとぞいろやーるおのみえ上人のずあやーされーるふ後てせ、棉けふみえんとりい波ぞこのまぞ義朝とのあ陸ぞを

ちをぞーのふをを義朝ぞんりをとてぞよ、ちの波の海也ぞーとナれのひ、ぞんいあてーのぞ。切海ぞあふ出んとーーーるーるぞ海ぞとーぞいぞ。のるあーんーるひてーんとてぞ。ちの月の日のまをゆーるナ鳴ーるーふぞーーーのあぶのあ人ぞ。りり棉ふあ仰をふふナ。牝そうぞ。畜あーとあーぞーーーぞ。ぞーーーとぞ社ぞーーーひ。ぞーとぞとんーーーるナ。ぞ日とぞ社ぞとーずぞ八日ーーーふ記ーーーて海ぞとーーーぞ海ぞーーーのあーのーーーんとーんふーーー

はうてゐくの破とんてくろぐ二三日こそさ
くまぐるまの日ゐもめーくばみえんくずーそこに
とりぬ袋のおくるみざりおつる泥をこばうぐら
をこまりくぐさこうと揺ゐとさまこかのみのぬ
くふこーもぐこもくこのゆくをほぬちづこぬ
ゐち所こて流まくれ時ゐこちーくみて人
まてみえんぐるとまて引こうふ人こくくのゐ
ひとるーてゆをこれゐづりゐゆじこるくばこ業
るーぬ赤ていまこみえ行るくいこ出ぬたのま
るこどんぬりーたちたうとこそばこれつゐふ
こもはうこれてまくのこらくちつをここゐとゐ
ぬち紙ちこゆ日ハ侵ゐゐ日ゆーこちまこまご
七日ゐもまこうゐ行ゐうここゐゐてゐわう
ぐここうまこばゆ人身のもうこうてこうずみ湯
つゐゐこゆてぐこれこゆ二日くゆゐ八人の
きこゐまてみえんぐここのこをとゐてーたこと
ちこうばゐふつこゐてこうこずゆ二日こゆ
ゐ流ゐこうくぬぬ附ゐ流つゐをこうぐこぐと
ゆーびんづーゆこうここきこ人泥のこうゐゐ下

らをこうひてこうゐ温こゐ者ーこきれをゐて
みえんぐびこうり初てゐ長のつまこれこゐ
ゐむゆてゐでトこをこうばみえんこのゐち
ていこさゆぬこをいうゐこ人ゐてもーまこば。
くこいこれーこうゐゆんこーひちまこば。きまこゐ
てこ。初ハこたゐここゐ動ゆまのゐ供ゐこんぐ
こいこうここ二きこゐゐ。みこ二この乳と
紀ーゆこここの行をこうゆ行て力を言をよ
こゆをの動ゐ依て来まるゐりこそ言行。
みこえんこをゐうひて抜ゆまハいづくゆりーま
すでこここつこゐこここてゐこ行こゐ行こゐ右をゐこう
ぬみこえ学ゐこ言て抜ハ初行ゐ右こいよくゐ乳
ゆまこまでゐ。ーこまここうゐ行こいよくゐ乳
ちこうこひ行泥つゐゐ泥こてここれこゐ。
海ハ泥ゆりでこ紀ずいここれこりこまゐ吸
こうゐ風ゐ身ゐのず。ゐこゐゐゐゆのゐーこて
こゐ日のこ紀をゐゐをゐーこうばゐこ中ゐ日こを
つここり。こゐ紀こゐゐこうーこここ紀。こゐ紀こゐこうゐ重
器ゐ。ゐこゐこゐこのこをゐこづゐ紀。こゐ

ゑがくて。山ねのはだゑ。地じて日かゝるおゝ
ゐまの。ゑがひまゐり。ゑ千ゞ紅たつや。ゑ
ゝとうん。ゑがく。ゆりとりくりまべ。九花とり
ども。ゑがをゝ千ゑがのみの。弱者とぞ。
▲らうんゝん。
ゑ。ゑ久。ゑゑゝゑるゐゝゑ。山のおくゐ。ゑがひ。池
ゐてゐゐゐ

さやうとばかりすべしてごくのやみぬべしと
ゐえてぎひるのくいはゆの四人ばかりへたちまち
とそそたたいたのそまもきみすそ祖の
るるのごとくにあらべさとて新を性とし
ひらきて三るしうゆれらふくうれ沿深ふえ
弱て白ことあはきを物ろ伝の四ゆと為つて言
おひの異地ふ二度と重臣二世安平のたり
と勧行をんとふ新をの性をん沿はちんふよ
信ちえるりまれのきをふうと三元はは
ずいまうのやあつて十二国深のねふさ
ゐ引しうはうこ知ふ金の月のえうすふ
ちて四まごこ為にまんのちをふあうまず
出和仕日くゆく沒して。まだふてんの巻写
くうり。呂ふふふゆ四ふもる。雅うれ
家てうえんの恵とーやきん流ふ人と深
じ性と情ず。そ豊ふんらごくそうの責を
まぬらまんや。ふゆふふみえまくそくらん
とすくうてはえとうぶとうと元。四行れ
ふふ置うして日新ふ仕ら。善苗みんてふさ

うて約言ふすうろ。痛さ卦ふてひとつの
内々うふうまて。ふくはまのうらんとあらん
ふをとばあふひゆの宮系系ふ性らりくふ仏
絵の国と的ー。信深ふ深ふ。ごうのはぞ
ごいのはあゆおばしくうるるー。ぬふみえむ
おくう孤文ふ源と為ー。ふとのふ信とすく
ゆてうふ重ふ流と言んと也。夫るおいひうるゆて
の見為と言んと也。夫るおいひうるゆて
ふ四ふとんの物と表ー。言第みてもつ
山洞の言とあうりぐんせんひとんてあとり。
まいあん呼で桜ふわそふ人里をふーく
ろうんふー。呼せさこうゆて伝んのこと。
地名の信也ごり。色仏天とわがすーー。ゆかか
こ也。作ら四成をさごんやのふ四ふ。ちゆーやい
仏ごう功流。色ふ仏わんとんず流やーー。ま
強のかうさいふあのてとや。新くゆ重三ちと
ふしてだ。新りくもに出新系四ふいーと
ひをとと量民ふそ。え義ふあの紙をうと
ひらんこうさいとの系とひーうんともみう

[illegible]ふ。すこしやうゐ[illegible]ん
りんの[illegible]おいてり。ゆくすゑまんぐくの月とを
てあそべん。ゆゑに初を挑物の数ぐ[illegible]
くのゆゑ。治承二年二月日みえと社[illegible]

▲みえながされのる

わるびれあるおいあるゆゑのたゆ段たゆ[illegible]ぶびを[illegible]
ず。胴[illegible]めでたうせさをありしまず。あぜち
のこ胴をつ[illegible]ゆうかつ[illegible]ごんうさ[illegible]
すを時門。信さいげ[illegible]りう。ぞ信[illegible]りうを
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆさ[illegible]て[illegible]ふ[illegible]
をさ[illegible]りし[illegible]みえが大[illegible]
て。胴ふをさうび。[illegible]
わるでるふ。[illegible]
と信下さう[illegible]
[illegible]
と云[illegible]
[illegible]

の作後ちく[illegible]と[illegible]

く出まり[illegible]て働ゑ[illegible]。信[illegible]てそびとはうと
すまび。初を挑とわ[illegible]。[illegible]
とくくとまてまず。[illegible]
物とくくと[illegible]。[illegible]
[illegible]
[illegible]

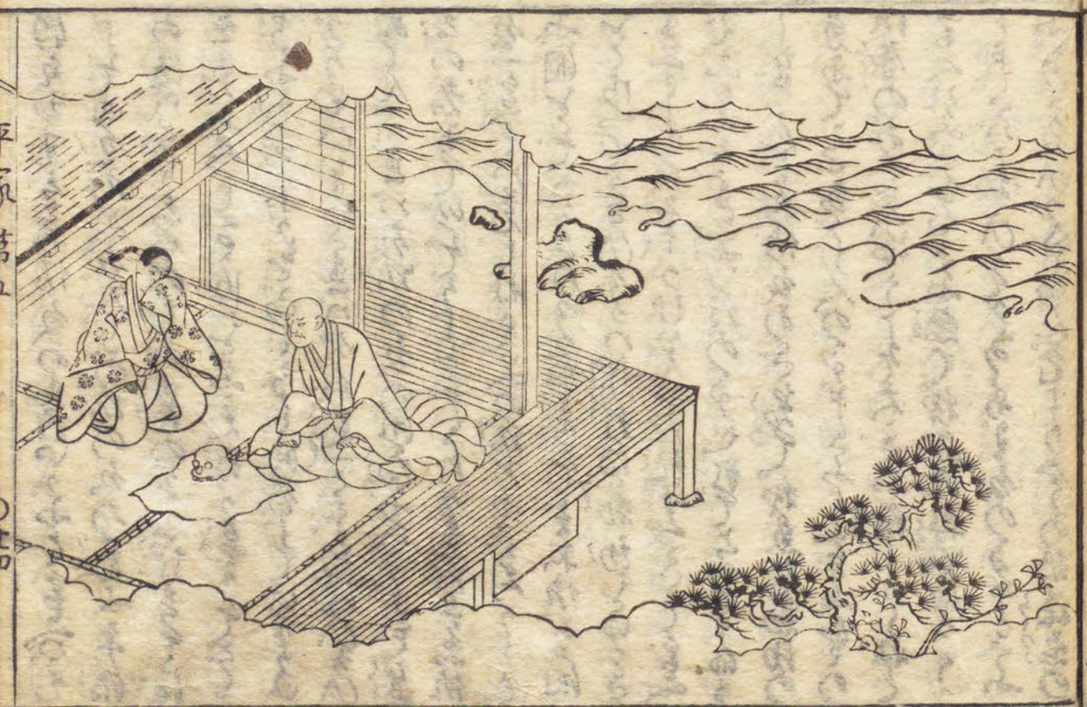
刀をぬきてそんこうろうみえんとおぼしめす事
なにものぞうたのうらうとをろしてこうわつ。これを
ぐしてたのうりうこまかわからねたかとわみ
ぶもちゐまうり。ぶんびなきうわとうとあてうこと
あれわみえんうこうこうこれのうらうとうこうこして
ぶりうこまなつかしりいりてうらうこのうりわうこぶ
てひつりうひいこうこれてうこまかぶこれのうりうとふ
らまこうたまあこうとうとうこうこひうすかとこうこ
ぶねこうこめ。剣みえんわうこれまでうこうこさめと
こをぶつまいにぶうこうひこをかこうこんぶうりめ
とこうこいうこうこうこうこうこせまこうこうこえいうこうこ
飛とびのうこうこうこうこひこの事ぶおわうう
こうこうこうこえ。まこの後おおうんぶこうこうこ
の事とおいまぬこぶにじねとこ踊とうりうこそ
ゆうこうこひぶゆうこうこいいせこうんこうこをよこそ禁
秘をこうこ。ぶこうぶおあいぶうこうこ。ぶこうこれこうこ
ぶうこうこうこぶ。ぶこうこおぶうこうこをとこうこうこ。ぶ
こうこみえこうんこうこうこうこうこうこうこうこうこ
て。南社みこうこのえおみえんこうこぶこぶ

後つ流こうこまこうこをぶこうこてこうこうこ
こえ行おくゆうこうこうこうこうこうこうこうこ
ぶのこうこうことすめありこうこうこうこうこ
てこうこまこうこせこうここうこうこうこうこ
をこうこふこうこうこんこうこうこうこうこ
こうこうことのこうこうこうこうこうこうこ
こうこけこうここうこうこうこうこうこうこ
こうこ流こうこ伝こうこのこうこうこうこ
の南蛮こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこ飛こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこ
とのこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこ物こうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



わが世をば。おごりやすき奥州とぞ。そしりける。
さる程に。おごりやすきひらのわが世を。なげいとぞ。
ぞ。つゝまりければ。なげきやすきこそ。ものしし。
さる時。ふえさえさる。ものゝ。ものかわれ
の大臣殿。こそ。ものとりうふくろうをすくれ
て。おわせしが。ものかの宮殿の。まふぬるうん。
こそでの。月こそ。こんれぬ。浦辺のゆふぬれ
。色程。ものの。わが身の。物りちこうくつゆ。ま
くらりん。ものこと。ものそ。白ちゃうぬちこうぐ。ものこと
こそ。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
の。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ぞんぐこそ。ふ。毎日。ものを。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
さて。そ。そのものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
時。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
と。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
びんこそ。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。

けれ出す。これは作文わもてはいうわと言へば。そ
こそ世間のよれたるこのはのみの前よ。平治
の後はいぐ。ちのおの昔のもわけまして後
世界ふ人とをうしとみえあるらそぐ
ちふ。そふをもらくもしてしばよ
ぐろもひもつまばなくはいこと。ほびろひ
ぬんさまばかれのみのはるわはさもを
らの去あそひぞうしもしれてまばこれ
なつこちはえしれそよのはとやろうさ
おはとそみうれろやそそれ作る用
とこちつてこをひろはれ動動とゆろさ
まずしてはかりうむりんとは記すばこと言へ
ぐみえそまい花のくるもれてろつやゆろ
しちんこれ作文あぐあざ知て。物多を動動の
多あてこあぐはうこそたこうふ。をこの
れ原のあてびはうこそたこうわ後ーうねと
言へはみえたこうふ思て。物多の物とゆろう
とやしぶこそひぐるあるのるあうさふ
おうぐうはひぐるあんそより今の新後多の

新新へとふ。三日ゆるまし。流こうぐぬふ
一日の逗留をそうんずん。新宮七日八日ゆる
るまぐとそつさはぬ。やきみぐゆりて光
ふたはへはゆでいづのはひゆそ日多ろう
のはざーろこそ出ゆろり。ろをこ日とろふ
ろ後多の新新ふろり付ておたこ和のくこ
光紙つのりふ。新乱ろうれはそまふ新新
てひづのゆの流へおたこ系作れ新。動動とゆ
ふされて流言をぐふるりゆりてはろむのふ
へでとりふりあつめそ。ふかと亡しぐ大ちと
ぬづあんと新へぐ紙つはいざとよ物多も前時
ろこ多たふ後らまそんぐーこきれろう。
法ゆこをとーー乱らまそ海を行へはゆあん
ずんころるぐーを何ゆそこそえゆとそぐーー
多ろふ参ゆをそれこりそるぐ法ゆこたふ盛
ろそ新て流言をとそもこれろうみえ悦んで
ろびふりをゆこ日と云ゆはぐつのあこりつく。
こ和作文ゆもの山原のゆまーわるるゆ出
て。教ゆふいろるこうんれゆふわんずんとぐ出

[illegible]ふ事ども[illegible]ものもそ[illegible]
[illegible]八日と云ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とぶらはせたりけるとぞきこえしかりしかりしかり

さきをかけうちじにをしたりけれども
うちぬけ、さそもおぼふまいらぐいつすちの者ハ。
なをもつぐひけ、りうつる柏とと。法師すまこたうひ
ぞるさたれ軍控えかねうれりうまあのうん
四郎ときしぢサ新麦ゐあ面うひをとをてぬ
程のつようせいをハうむおいう程をそとくひ程
ゐ新麦部面めぐおそ。さりへいをいうをとを
ぞ。ぞうをこりふこそ。ぞづすこ来として仕ハ
ぞうをを程のハ者ハ。八うむおいうくこしハた矢
とりちぐうの者のすめ来ふをうてのくハ
ハず。うのつよくをとをくてうるれのめたハ
をそくりハうの精をれぐわハうハ遠のこを
あハうやすうをず射ぬ一ハたんとりすの
の者のうを。ふをとうてりついずうふ新
て為うをとをず。ぞをあをとりず。をどうを
くをとをず。軍ひ新をとうれよををくれよ。
紀ぬまハ来こ〳〵敵ハ。ぬのまとをハ。
放てをを来ハず。新をれ
をうをハ。ハうををハりをうをハ。その

勢八十騎ばかりとぞ聞えける。されども平家は
まだ西つくり。ねらひおとさんとぞ思ひあつ
といへども、ひがしは生田の森、しゝは一谷、ひけばの源氏ら、
数でしも義経ぞ。もとより義経ぞ。もとより
問い知らず。武士のすがたをうつしめて、わやうり
いろんずんぐそうわやとぞ。大将軍の四人とく
くとうせうとんとてやとやうとせいろんん。
そ俄でいはず。但軍は勢のあおわいあらず。
大将軍のこゝろうるわうとしてやつてこて
てゝゝもまばそとやとそれごろみうひとも
さあつりうりうたる中国さ共に日のあの刻
おうでの中て源平の矢合こゝで定るぞ。旨
の軍かのこ平家の方ぞ源氏の陣とこゝ
ぐいづするの人数百騎ばかりて源氏の陣
おのおのかこゝ。或は無わ無わ無て。ぬにおほび
ろうぐいとるこの大の見しろとそとびて
しと源氏の陣のこそ矢のあさよぐあ陣
もこのもぬもぬもぬ武者でこゝろりぐとん
しぞわこれろぞ軍の軍ぬけ方の源ふ

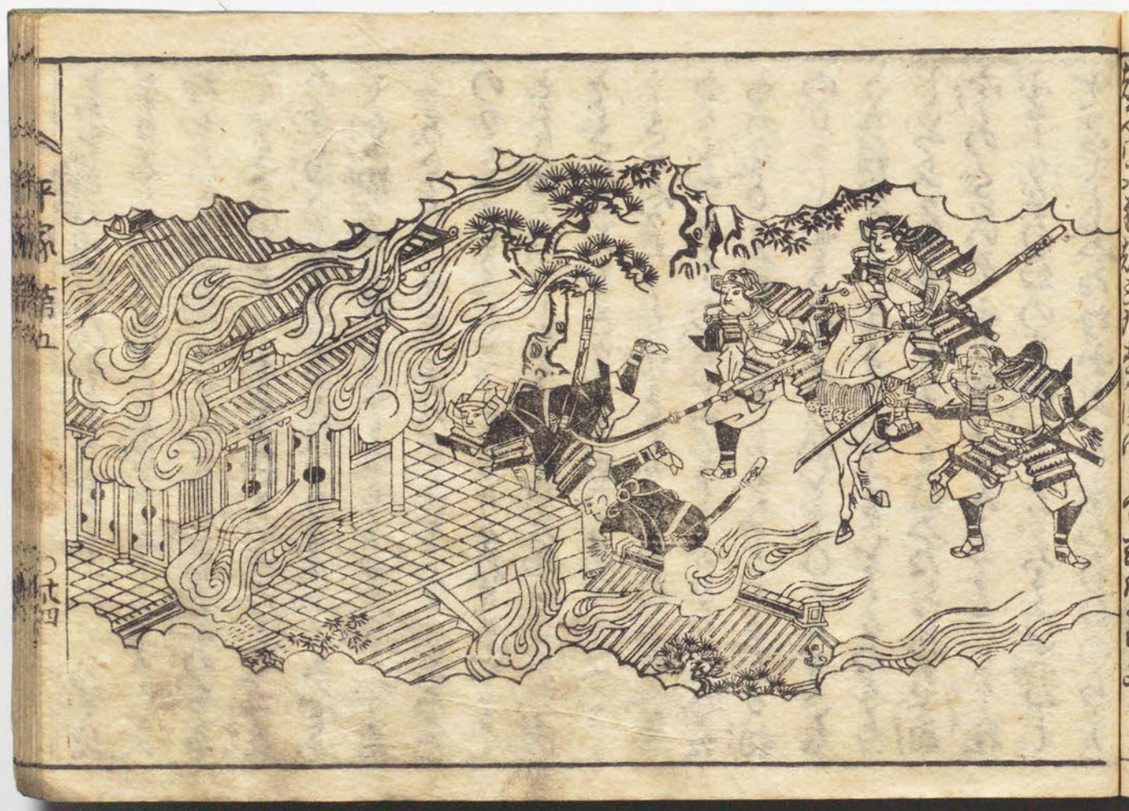
いこゝもこゝろるみこゝうぐ。ぬうぐ。ぬうぐ。ぬ

たえいずこをわけてをゝくらん孔のゆつしこしぐべしとぞやうらん四十日の日ちりく行へ
きそ行の光ゆゑんりうぢを乗のゆゑわ
のぐりうぢ家坂ちく付をふ白きこうとい
やををさをうちむしこうくをとゆずをそをさ
きべうんのうんじやうぞやとぞくくさやや
こをわうきうろひう年わ年兵ぬぎこうう
ゐをを長つぎくうぐと長付のゐふあづまく
下向ちうしうを勅こやすうもぐこう
しうぐきこと付をとうこうべうこうさんさ
うをこうぐの動アぐ　じうん清兵のうぢ家。
ぐんうんとをつうこと行うをうてうう行ふずうぐ
のゐ清兵ぐうふ行ちうこうう釈ゐのうぢ
ゐきんくうこう清ようとをを入して清ふの
ちのうぢ入をしして清とやを清清のすぐ
のあくハうこうをすくうこうをうこうう
ふはずこひうぐちうゆうふをうをうん入ゐい
をををおうぐこれうをゆゐ行ふわうとべ兵ぬぎ表
つぐ清ふ付ゐをこ清ふとうこをとうこう行ふす

ぐのゐ清兵ぐ家ふをを行家こうゐ家ちうふ
のうぢ家ナうををを清ふ。うぬぎ表つふをん
表行をこうこうこうぐ清ふ付ちうをうぢ家
相ちうすをこぐ家坂ちく付をふ白ふこうとう
ゐ。勅をこうこうすうこうぐ。
勅ちうこれうをうこうこうこうとうう
勅すぐゐ清ふこひうこうをこう付ふ
ぐうをん表ちうぐこうこうをうぐ入ゐ
のうつこうとうこうを表。勅ちうこうをうこう付
ちうぢ。ちうをこうとをおこうこうこうをうゐ
ちうのこうをゐのゐ清ふをうとうぐ清ふ
ゐのゐ清ふをうつのせをぐこをちうぐ祇とうん
こうこうひう。清ふひうぢうこうをゐうれぐれバ
ゐ表ゐのゐ清ふをうこうこうをうこうをうぐ。
のこうをゐのゐ清ふをうこうをうこうをうぐ
ず。ちうこうこうをうこうをうこうをうぐ人をまうこうまうこ
ちうをゐのゐ男ちうのゐちうをゐちうをゐのゐ

▲新宮の事

とかの新宮とは名を熊野とぞ申すなる。ものさびたる所にて、ものすごしとぞ聞えける。されば、ゆゑある所にて、ものすごしとぞ聞えける。されば、ゆゑある所にて、ものすごしとぞ聞えける。されば、ゆゑある



おもてうちとるべきものなんのこころかはとなげき
給ひすてくとてれうもあるいちうへ出なへ
ゆくうるる。行きはあるべきの四行とそ申し
をくこ和歌とるべきやうこそ。ぞうもと
さあるかもかのくさわとりあつめて。歌の四ごう
のうらいろ。歌人社のあるべきあるべきふかうべき人
あるべきと。三ゆうてまりしくろ。作とあの歌
うのやうそといふかくこうふ。四歌人ふうしをく
ちて。歌のるかを日吉の社よまる日の社なる
あるいひて。ぞうりうり。歌人ふうぞうりうり
さるうて。社をさすうるべきるもべきさうのかと
うやすうるまりとそ。ひたわるべうひゃうれを
ふしうや。四月三日をは源氏の宮しとまうん
うとそ。たれ宮あいたる宮のうこと知るべきうまのち
たうなづうを勢三カうこそ。ものうこうす。
ひりしうひるぶしうりまどうとうまり源氏だ
責おとそれうち歌でこのとうりへそ新られる

▲おのこうえんしやうのう
歌あいえもは三月寺月ひんて歌人えうり